

# 大南の軌跡

武蔵村山市立 小中一貫校  
大南学園第七小学校  
学園だより NO3  
令和6年5月24日

## 「心理的安全性をめざして」

武蔵村山市立小中一貫校大南学園第七小学校

校長 川口 周作

学校の教育活動では、学校や学級で安心して過ごせること「心理的安全性」を高めることを常に目指して、日々の教育活動を行っています。この「心理的安全性」に関係することの一つに「ことば」があります。今回は、この「ことば」に関しての話になります。

### 「ことば」

昨年度、学校生活の中での「ことば」が気になる場面が多くありました。子ども同士及び子どもと教職員との会話などにおいてです。「ことば」の学習は、国語の学習だけで完結するわけではありません。日常生活や学校生活で使っていくことで学ぶことも多くあります。しかし、「ことば」の難しさを皆さんも感じたことがあるのではないのでしょうか。私自身も、「ことば」で失敗したという経験がいくつかあります。担任をしていた頃は、児童への言葉かけや言葉の使い方で失敗し反省することの繰り返しでした。

さて、「ことば」に関して本校では次のような取組を行っています。大南学園としての学習行動目標を「わけをそえて話すことができる子ども」としています。自分の考えや思いを伝えるための理由を述べることを教科学習で適宜行っています。また、今年度、七小では場による「言葉」の使い分けを生活指導の重点指導にしています。児童が、職員室や特別教室に用事があるときには、①自分の学年組②名前③用件を伝えるようにしています。思い切って、自分の言葉を伝える。場に応じた言葉の使い方を知る経験をさせ、より良い言語環境にしていきたいと考えています。是非、ご家庭でも「ことば」の使い方を意識してみてください。

なお、教職員の言葉使いや声かけなども、引き続き丁寧に行っていきます。よろしくお願いいたします。

### 「ふれあい月間」

年間を通して、いじめ、暴力行為等の問題行動、不登校の未然防止・早期発見・早期対応等について具体的な取組を行ってきているところです。東京都及び武蔵村山市では、6月と11月は、児童へのアンケート等を行うなどして、年間を通した取組の強化月間（ふれあい月間）としています。また、道徳の学習では、「他者を思いやる心」などを中心に行っていきます。

### ～食のお話～

5年生が5月中旬に、学習農園の七いろ園に「胡瓜」と「唐辛子」を植えました。今回は、その植えた「胡瓜」のことわざを紹介します。「胡瓜は血をきよめる」です。下記の引用文献によると胡瓜の大部分は水分で、わずかにビタミンAやB1、B2、Cを含んでいて、胡瓜の水分にはカリウムが多く、体内の過剰な塩分を排出するうえで役に立つだけでなく、浄血や利尿効果もあり、腎臓機能を整える働きもしてくれるとあります。

引用文献：和食ことわざ事典（東京堂出版）